

「婆ちゃんのお念仏」

柴間 邦守

私がまだ幼かった頃、私の祖母は一日中と言っていいほど、低くつぶやくような声で、何度も何度も「なまんだぶつ」「なまんだぶつ」と称となえていたことを思い出します。

その声はお勝手をしながらも、お寺の境内の草を取りながら、もちろんお内仏からも、朝夕に聞こえてきたように思います。

何故あれほどまでに「なまんだぶつ」を称となえていたのだろうか。きっとその頃は単なる婆ちゃんの口癖程度に考えていたのでしょう。

しかし、今改めて思い返してみると、「なまんだぶつ」一つが、祖母の生活の全てであったようにも思えてきます。また、祖母の「なまんだぶつ」はどんな時にでもという、不思議さがあったようにも思えます。嬉しい時も、悲しい時も、都合の良いことにも、悪いことにも同じ響きが伝わる「なまんだぶつ」でした。

「なまんだぶつ」、それは報恩感謝のお念仏といわれます。

報恩感謝のお念仏とは、如来の本願によって与えられた名号みょうごう、「南無阿弥陀仏」を、そのまま信じ受け止めることによって、即そく、浄土への往生が決定するといわれます。そして、その後に称える「お念仏」が、まさに報恩感謝のお念仏ということになります。

祖母のお念仏がどうであったかは、はかり知ることはできませんが、あの声の響きにはただひたすらで、ゆるぎない力強さがあったように思えてきます。

私は、「お念仏の生まれる生活をしましう」とご門徒の方に申し上げています。「お念仏を称となえずにはいられない気づきのある生活をいたしましう」ということでもあります。阿弥陀仏を信ずることによって開かれた明るい目をいただき、良いと思われることも、悪いと思われることも、感謝せずにはいられない私であることに気づいていきたいと思います。明るい人生はそこに生まれてくると思うのです。